

高齢者IT教育ポータル「シルバー・アイテラシー」

目 概要

【背景】

日本人は世界的に見てもITリテラシーが低い。それに加えて急速な少子高齢化社会を迎えており、このままでは世界の中での地盤沈下が加速しそうである。

少子高齢化を防ぐには、まず少子化の対策が必要であるが、その効果を待っていてもしかたがない。であれば、高齢化社会でもいかに豊かな国であり続けられるかの具体策を考えるべきである。

現在、世界的にITが急拡大しており、既にITの力が国力の差となりつつある。

高齢化社会が避けられないなら、高齢者のITリテラシーを世界トップクラスにするしかない。

そのため、高齢者のITスキルを高めるためのポータルサイトを構築して、日本中の高齢者のITスキルを高め、マインドセットをガラッと変える取り組みを行う。

【現状の課題】

(1)日本のITレベルは低い

コロナでも露呈したが、日本人のITリテラシーは海外に比べて低く、これが長期低迷の1つの原因になっている。

(2)高齢者が急増

少し前から少子高齢化が始まり、今後、ますます急拡大する。小学生など次世代に対するIT教育がようやく始まったが、その子たちの成長を待つのではなく、

それよりも急増する高齢者に対するIT教育に力を入れる必要がある。

目 解決したい課題：アイデアで解決したい課題は何で、それをどうしたいですか？

(1)高齢者が急増し、その多くはITが苦手

高齢者が増えるのが避けられないなら、むしろその人たちがITを使いこなせるようにしたい。

(2)高齢者向けのIT支援が脆弱

高齢者向けの教育は、いくつかの民間レベルで行われているが、今のところ規模が小さく点と点が結ばれていない。

そのため、内心でできればITを使いこなせるようになりたいと思っている人たちを支援するパワーが弱い

目 解決方法：課題をどうやって解決しますか。骨子を記載ください。

(1)ポータルの構築

高齢者向けのITリテラシー教育ポータルを構築し、高齢者がオンラインでITリテラシー教育を受けられる仕組みをサービス提供する。

(2)構築するeラーニングサービス

ユーザー（高齢者）に対して、デジタルコンテンツを読む、デジタル問題を受ける、オンライン学習する、などの教育サービスを提供する仕組みを構築する

(3)教育コンテンツ

オリジナルコンテンツをイチから作成するのは大変なので、下記のようなカテゴリーごとに教育産業で活動しているEdTech企業（参考：カオスマップ）に安価な価格で作成・提供してもらおう仕組みで運営する。

a. 教材タイプ

デジタルテキスト、デジタル問題集、ビデオ、オンライン授業、1on1・・・

b. レベル

超初心者、初心者、初級、初中級、中級、上級



【2022年版】ICT教育（EdTech）サービスカオスマップ（出典：Study Valley社）

(4)受講料

無料を前提とする。もしくは月500円程度の安価なサブスクモデルとする（無料だと受講率が低くなる可能性を考慮して）。


(5)コンテンツ提供の対価

コンテンツを提供してくださるEdTech企業は、コンテンツパートナーになっていただく。コンテンツの対価は支払うが、趣旨に賛同していただいて安価な価格で引き受けてもらえる会社を想定している。


(6)広告宣伝

最初は冷えた状態からのスタートとなるので、広告宣伝費の予算を撮ってしっかり認知活動を行う。

- a. TVでの宣伝（高齢者向け番組のCM枠は安価）
- b. SNS活用 ハッシュタグ #日本のシルバーは世界No1のIT使いになるぞ！
- c. スポンサー企業（大企業のSDGs関連、シルバー産業企業など）
- d. ボランティアの輪（将来、負担を背負う若者、高齢者同士など）
- e. 政府、自治体の協力
- f. さまざまなイベント（敬老の日はITゲームの日とか）
- g. 全国の老人ホームから受講も可能とする

 類似（独創性）：現在、このアイデアと類似する仕組みがあれば記載ください（検索してみてください）

これまでに全くない新しいサービスです。

 有意性：既に存在する類似の仕組みと比べて、どこが優れていますか（存在している場合のみ記載ください）

既存で類似がないので比較はないが、これからの日本に必要と思える。

実現方法：どのように実現するか、できるだけ具体的に記載ください（ファイル添付も可）

最初は冷えた状態（日本のお年寄りにはITが苦手）

- (1)パイロットサイトを作成する
 - (2)EdTech企業に趣旨を説明し、コンテンツパートナーとなっていていただいて教育コンテンツの提供をお約束いただく。
 - (3)大企業やシルバー産業企業に趣旨を説明し、スポンサーを集める。
 - (4)政府や自治体などに趣旨を説明し、協力を得る。
 - (5)全国の老人ホームに趣旨を説明し、受講者集めに協力してもらう
 - (6)集まった資金をもとに、サイトやコンテンツを充実させる
 - (7)広告宣伝費をかけて、認知度を加速する
 - (8)年配者の口コミで徐々に熱が高くなる
- 最後には、多くのお年寄りがITを使いこなす社会になっている

課題・障壁：実現する上で課題となることは何ですか、それをどうやって克服しますか

(1)システム構築とコンテンツ作成に関するコスト

技術的には特別なことがないので問題ないが、営利目的でないので資金をどのように調達するかが最大の課題（解決案）

- ①政府所管とする、もしくは政府の支援してもらう
- ②企業に賛同してもらい、スポンサー制度で資金を集める（定年退職者を教育する見返りとして援助してもらうなど）
- ③クラウドファンディングなどを使い、広く集める（知名度アップの効果もある）
- ④開発メンバーは、高齢者ボランティアエンジニアも集められると思われる
- ⑤卒業生がボランティア（もしくは低コスト）でボランティアになる循環を作る
- ⑥卒業生が請負開発の仕事をする中から一部を寄付してもらう（仕事の斡旋も行う）

(2)作ったのに受講者が来ない

作ることが目的となって、せっかくできたのに受講者が集まらないおそれがある。

（解決案）

- ①予算を構築費用とは別に広告宣伝費用をきちんと確保する
- ②作るまでの予算ではなく、コンテンツの充実、運用&維持、機能拡張費用と普及活動の費用を長期で計画する。
- ③意義に賛同する人は多いので、政府、企業、マスコミ、一般の人などに幅広く呼びかけて協力してもらう。
- ④高齢者の中のアーリーアダプターから利用者を徐々に広げ、口コミ&お誘いを利用して受講者を広げる。

期間・コスト：実現に必要な費用と期間はどれくらいでしょうか。初期リリースとそれ以降など記載ください

リーク開発を使い、機能は毎年少しずつ拡張してゆく。初期版の開発期間を1年とし、費用は次の通りを計画する。5年以内に誰もが知って、いざとなったら使うサイトになっている。

パイロットサイト(6か月で作成)：開発費用1千万円、運営スタッフ5百万円

その後3年間：毎年、運用費と機能拡張とコンテンツ作成で1億円、広告宣伝費3千万円

それ以降：毎年の金額は上記の半額。

ただし、政府などの支援が得られるようであれば、もう少しお金をかける。逆にボランティア中心であれば、もう少し抑えることも可能。



未来像：実現したとき、人々がどのように恩恵を受けて幸せになれるか、理想像をお書きください

無料で楽しくITを勉強できるポータルサイトを用意することで、高齢者の受講の輪が広まり、高齢者のマインドセットがじわじわと変わっていく。

50歳以上で比較すると5年後には世界並みのITリテラシー、10年後には世界トップのITリテラシーの国となる。高齢者のITリテラシーが高くなることで、

これまで最低レベルだった公共のITサービスの障壁がなくなり、公共のITリテラシーも世界トップレベルになれる。